



ホームページアドレス <http://mizumaki-church.sakura.ne.jp>

発行・カトリック水巻教会  
編集・広報委員会  
遠賀郡水巻町頃末南1丁目35-3  
〒807-0025  
TEL 093(201)0680 FAX(201)7354  
第384号

## 遺志を受け継ぐ 広報委員 山口 一隆

谷口神父様を主任神父様にお迎えして、一か月がたちました。神父様が常駐されるのは、「本当に安心なものだ」と思わずにいられない一か月でした。しかも若い神父様の登場は李神父様の早い御帰天もあって、水巻信徒の喜びは一層増しました。谷口神父様、どうかよろしくお願いします。

谷口神父様はミサ中、説教の中で、水巻教会への赴任を「李神父から呼ばれたようだ」とおっしゃいました。と同時に「李神父が水巻教会の中で成し遂げようとしていたこと、継続しておこないたい」と語られました。

李神父様のやろうとしていたこと。一番に思い出すのは、中、高校生、青年たちを募っての映画鑑賞会。勿論映画鑑賞に目的があったのではなく、遊びを通して若い子たちの育成を考えたものでした。残念ながら、この時は参加者一名という結果でしたが、これに懲りず、以後もピクニックなどを通して、若い人をより広く集めたいと語っておられたのを思い出します。

教会学校が主催したキャンプにも悪化する体調にも関わらず、顔を出されていたことも印象に残ります。

教会の明日を担う子供たちの育成。少子高齢化が水巻教会にも押し寄せています。若い人たちの育成は遅きに失

しますが、今からでも遅くありません。谷口神父様と一緒にあって故李神父様の遺志を受け継ぎたいものです。



新元号とともに教会も	2面
世界三大宗教を知る	3面
委員会報告・今月の聖人	4面
聖書を聞くこと	5面
イザヤ書を読んで	6面
幼稚園から	7面
お知らせ・教会学校より	8面



## 新元号とともに教会も

谷口 尚志 神父

例年になく、もっとも長い連休期間となった今年のGW。その只中の5月1日。日本は平成の時代を終え、新しい天皇の即位と共に令和の時代へと移行しました。この令和の時代を、日本社会を生きる全ての人々、また諸外国の人々との協調のなかで、そしてそのすべての関わりの源である復活されたキリストとの一致による喜びのうちに平和に過ごせるようにと心から願うばかりです。

皆さんにとってもそれぞれの思いがあることでしょう。平成の時代はわたしにとっても色々なことを考えさせられた時代でした。平成元年に移行した年、わたしは小学2年生でしたが、鮮明に覚えているのはベルリンの壁の崩壊、冷戦終結の出来事です。登校する頃、すなわち午前8時頃にテレビで見た映像は今でも脳裏に焼き付いています。ドイツを東西に分断していた壁にたくさんの人々が登り、つるはしでその壁を壊す姿。当時はその出来事がどれだけ大きなものであったか想像がつきませんでした。そして、その背景に当時の教皇であった聖ヨハネ・パウロ2世の存在が大きく関わっていたことも。もちろん、平成は喜ばしい出来事ばかりではなく、むしろ、悲しく辛く、悔しい出来事を記憶している人が多かった時代だったのかも知れません。オウム真理教に代表されるカルト集団の台頭と、宗教行為を語ったテロリズム、日本をはじめ世界各地を襲った数々の大規模な自然災害、卑劣な殺人事件、幼児虐待、孤独死の問題、信教の自由と人権擁護を無視した迫害や紛争などがそれにあたるでしょう。数えたらキリがありません。

令和という新しい時代の歩みを始めた日本社会。教会も過去をふり返って前に歩み出す決意を新たにしていかなければなりません。私たち信徒にとって、過去の出来事はただその時点で起こったことではなく、キリストによって現在と直接結びつくからです。キリストは「かつておられ、今おられ、やがて来られる方(ヨハネの黙示録4.8参照)」として“今”の私たちと共におられます。過去をふり返りながらも、この教会共同体に託されたキリストの現存を生き、伝える使命をとおして全ての人と協調し、キリストによって世を救われる神のわざの証人として令和の時代を歩み出しましょう。私たちにとっての「令和」は三位一体の神による交わりを指す「霊輪」(※)なのです。

(※)あくまで宗教用語ではなく造語です。

(世界三大宗教を知る)

## キリスト教 (2)

キリスト教がローマ帝国の各地に広まってから時間が過ぎると、ローマ帝国の中にも沢山の信者が誕生しました。その時に有名な皇帝ネロによる迫害がおきました。それでもキリスト教の信徒は増えていきローマ帝国の中心人物たちの中にもキリスト教は深く浸透していきます。313年にその時のローマ皇帝コンスタンティヌスは「ミラノ勅令」を発表しキリスト教の公認を宣言しました。このミラノ勅令の基本は信仰の自由を認めたものですが、内容がキリスト教に偏っていましたので、今までのゼウス神を中心としたギリシャの神の信仰はキリスト教の偶像崇拜を排除する姿勢などもありギリシャの神の信仰は衰退していきました。

ローマ皇帝は「キリスト教徒を迫害するのではなく、むしろキリスト教徒を味方にして国を立て直そう」と考えたと言われています。その後キリスト教会にも色々ありましたが、380年に皇帝テオドシウスによってキリスト教はローマ帝国国教となりました。

ところが395年に皇帝テオドシウスは死に際し、帝国をまだ幼い二人の息子に分割して相続させることにしました。ローマ帝国はこの頃も広大な領土を持っていたので、兄に東半分を与え、弟には西半分を与えました。そのため兄が相続した東ローマ帝国の首都はコンスタンティノープルとなり、弟が相続した西ローマ帝国の首都はローマとなりました。

このことによりキリスト教会も東西に分離されてしまい、それぞれ独自の運命を辿ることになったのです。これまで東西に分かれていたキリスト教会は1054年に完全に分離しました。東の教会は自らを「正統(オードソックス)」と称するようになり、使用する言語はギリシャ語となりました。西の教会はラテン語を使い、私たちの教会であるローマン・カトリックとなりました。東方教会は、その後北の方へ伝わっていきますが、国や地域毎にギリシャ正教、ロシア正教、ルーマニア正教、アルメニア正教等になりました。東方教会の中でアルメニア正教だけは独自の信仰形態を持っています。アルメニア正教会はロシアの支配を信仰にまで受けないため、そのようになったそうです。しかし、アルメニア国は303年にローマ帝国より先にキリスト教国になった国です。だからその誇りをアルメニアの人たちは持っているのではないかと思います。東方教会は普通「ギリシャ正教」という名前で私たちは知っていますが、この教会が誕生したコンスタンティノープルは16世紀イスラム教のトルクメン人によって帝国が奪われ、オスマントルコ帝国となりました。その時にこの都の名前は「イスタンブール」となりイスラム教国となりました。しかしカトリックでいえばバチカンに相当するような、ギリシャ正教の中心のコンスタンティノープル教会は今もイスタンブールにあります。大きな教会ではないのですが、この教会は今も大切な働きをしているとのこと。シナイ山に行ったことがある人は、シナイ山の麓に修道院があるのを御存じではないでしょうか。この修道院はイスタンブールのこの教会からの支援で維持されているそうです。

今回は簡単に中世のキリスト教会の複雑な歴史、特に東西の教会の分離について簡単にまとめましたが、かなり端折って書いてあることをご理解ください。(広報 岩本)

# 委員会等報告

2019年5月分

## 5月度小教区委員会 5月12日

### 1. 行事予定

- ・6月2日(日) サンパウロ会の移動販売
- ・6月 9日(日) 小教区委員会  
総会資料印刷
- ・6月16日(日) 総会資料配布
- ・6月23日(日) 総会開催

### 2. 議題

#### (1) 各委員会報告

##### ①冠婚葬祭委員会より

葬儀に使う棺の覆いを漂白・防水しました。

##### ②典礼委員会より

奉納時の白い手袋は廃止することとします。

##### ③納骨堂委員より

・連絡が取れない利用者がある。合葬も将来検討が必要になる

・納骨堂の小から大へ引っ越した人がいる。使用料差額5万円をいただいた。

#### (2) 総会資料確認

- ・総会資料、決算と予算報告、神学生基金寄付について確認しました。
- ・故李神父様給与の一部(50万円)を福岡教区の司祭養成基金へ寄付することを承認した

#### (3) その他

①園児が勝手に出入りしないよう、シャッター側の扉の扉上に留め金を付けています。出入りの際は、留め金の開放・再セットを忘れないで下さい。

②総会后、奉納当番、掃除当番は新地区で割り当てし直します。

③幼稚園の行事がある時は、駐車場が空いていないことがありました。幼稚園行事のある時は先生方の車を別の場所に停めるなど、教会への配慮を幼稚園に求めています。

④水巻教会で契約の携帯電話は解約しました。



今月の聖人 2日 聖マルチェリノ 聖ペトロ殉教者 ?-303年

ローマ皇帝ディオクレティアヌスの迫害時代に、彼らはキリスト教徒であるという理由だけで捕えられました。ペトロは、獄中で守衛の娘の悪霊を追い出しました。このため、守衛の家族はキリスト信者になり、牢獄から信者たちを逃しました。しかし、マルチェリノとペトロだけは逃げずに残り、獄中のキリスト信者でない人びとに教えを説いていました。その後2人は、寂しい森の中に連れて行かれ、斬首されました。

## 聖書を聞くこと

故・李神父様が赴任して間もないミサの説教の中で、突然「聖書の朗読中、聖書と典礼は見ないでください」と問題提起をなさいました。それまで、聖書朗読の際、目で文字を追いつつながら聖書朗読を聞くことが習慣になっていた多くの方の頭の上には、きっと?マークが乗っていたのでは…。

神父様のそのショッキングともいえる言葉を聞いて、次の言葉を待ちました。「ミサ中の聖書朗読は耳で聞くもので、目で追っては聖書の真意は分かりません。静かに聴いて、聖書の中身をかみしめる事に意味があります。」と。「古代から中世。近代のつい最近まで、聖書は読むものではなく聞くものでした。聖書そのものが高価でとても庶民の身の回りにあるものではなく、聞くことが聖書理解の唯一の手段でした。だから聖書を感じたかったら、聖書を聞くことを勧めます」

「そういうことか」と思わず、手を打ち(心の中で)ました。

「ただし、耳の遠い方は、目で聖書を追っても構いません」と笑みを浮かべておられた顔が印象的でした。

この説教以後、ミサ中に「聖書と典礼」を開く方は大いに減ったのは言うまでもありません。

私自身も、なるべく「聖書と典礼」は伏せています。ただ、何かに心を奪われているときは、雑念が入り、聖書朗読を聞くのが途切れ途切れになったりすることがあり、反省しきりですが…

それでも虚心の状態の時は「聖書は聞くと、理解を深めるものだ」と思うことがあります。特に自分がよく知っている箇所などは、より一層理解が深まるなど、神父様が言われたことに納得することも数多くありました。

現在でも、ミサ中「聖書と典礼」を伏せて、聖書の朗読に耳を傾けておられる方が多く、李神父様の説教の影響を強く感じます。

普段、聖書を一人で勉強する際は、目で聖書を読んで聞くことはできませんが、朗読することで、その一助となるかもしれません。心の耳で聞くことの大切さ、これを念頭に置いて、聖書に臨みたいと思います。

(広報委員 山口 一隆)





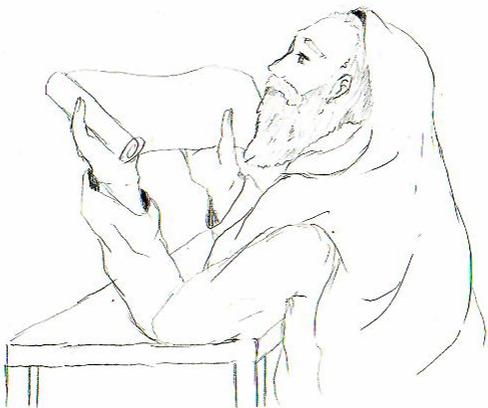
## イザヤ書を読んで(聖書研究会にて)

聖書研究会グループ「聖書の分かち合い」(毎週水曜夜)において、ここ約1年弱イザヤ書を読み進んできました。解説を求め、フランシスコ会訳の聖書の注釈、ベリオン神父による解説リーフレット、旧約聖書時代の地図、北イスラエルと南ユダの分裂時代の年表を利用；しかし、この会では何よりも「分かち合い」をする事が原則です；その点、聖書で語られている事が、出席されている小林ご夫妻のブラジル体験に照らされつつ、話が弾みました。

イザヤ書は3つの部分に分かれ、第1、第2、第3イザヤと命名されます。以下、肝心の信仰心と聖書的観点が抜けた事をお許し頂きたいのですが。

第1イザヤは、アッシリアによる、主に北イスラエル王国への侵略の歴史が中心で、読み進むにも手に汗握るものでした。この直後に起こるバビロニア帝国の勃興と捕囚ほど有名ではないにしても、南北王国ともアッシリアに蹂躪され、周辺国と同盟を結ぶか迷う姿；たとえば、南ユダ王国が、同じ民族であるはずの北イスラエルを敵に回して、アッシリアに擦り寄るなど、右往左往する姿が描かれていました。

アッシリア侵攻による悲劇の真っ只中、第1イザヤ書は突如幕を終えます。続く、第2イザヤでは、アッシリアによる侵攻の次にそれを上回るバビロン帝国の勃興と南ユダへの侵攻が、なんと飛ばされています。聖書を読む我々からすると、第1イザヤで手に汗を握らされた戦乱の様子がこれ以上続かなかったことは、むしろ歓迎すべき事でした。第2イザヤでは、我々が読み取れた限りにおいて、捕囚から開放されて、ほっとした雰囲気にも包まれていました。この聖書を学ぶメンバーの気分も、悲劇から安堵に変わり、集まり自体、喜ばしい気分になりました。最後の第3イザヤ書では、何らかの時代に乗っている訳ではなく信仰的なものばかりで、章ごとに「純粹に神を賛美する」、「信仰心の薄さのゆえに神から叱りを受ける」、「至らぬ心の故に神から叱りを受けるが、改善すれば神から信頼を取り戻す」；これらが繰り返していると言え、我ら参加メンバーも、一喜一憂することとなりました。この聖書研究会で、本当は、もっと多大な内容を心に刻んだのですが、拙稿を咄嗟に書いた事をわびつつ、報告をしました。(三谷 尚)





## 水巻聖母幼稚園 マリア子どもの家 6月のお知らせ

いつも皆様のお祈りとお支えいただき感謝申し上げます。

### ＜水巻聖母幼稚園＞

先日、谷口尚志神父様とゴボウを収穫致しました。周りの土を掘っても、ゴボウが長くて苦戦する子ども達。なかなか抜けないゴボウに「うんとこしょ、どっこいしょ」という掛け声と共に5人がかりで引っ張る子ども達。ゴボウを持って「ゴボウはいかがですか〜?」と楽しそうでした。収穫の後は神父様と一緒に鬼ごっこもして楽しんでいました。



神父様は、子ども達と一緒に給食を食べてくださっています。大好きな神父様と食事をご一緒出来て、幸せいっぱいな子ども達。楽しい会話が弾んでいます。

【幼稚園見学会】

6月8日(土)10:00 事前に予約をお願い致します。

水巻聖母幼稚園 TEL: 093 201 9559

e-mail: [contactus@mizumakiseibo.ed.jp](mailto:contactus@mizumakiseibo.ed.jp)

### ＜マリア子どもの家＞

5月の長い連休が終わりました。私達の心配をよそに、子ども達は前と同じように、熱心に活動を始めました。色々な手仕事ができることをとても楽しんでいるようで、職員一同ほっとしたり嬉しく思ったりでした。

4月の初めに植えたトマトの苗に、小さなトマトがつかまりました。今年もまた、レモンの樹にアゲハ蝶の幼虫を見つけま

した。大きな緑の幼虫から

小さな1~2ミリくらいの黒い幼虫まで、9匹も居たのにビックリでした。食べる若葉が足りるか心配です!



TEL: 050 5212 7759

HP: 水巻町マリア子どもの家

水巻聖母幼稚園・マリア子どもの家

園長シスター松川明子 教職員一同

**★サンパウロ移動販売★**

日 時：6月2日(日)

ミサ後、ふれあい会がお茶を出している  
場所で販売があります。**★信徒総会★**

日 時：6月23日(日) ミサ後

信徒の皆様の参加をお願いします。

総会資料は、16日にお渡ししますので、  
事前に目を通されてください。**教会学校のページ****4月21日**

4月21日のご復活祭にはミサ後、子どもたちは、ここ数年恒例のエッグハント（卵探し）をして楽しみました。この日はかなり気温が高く、眩しい陽射しの中でしたが、10名の子どもたちは夢中になって園庭のあちらこちらを走り回り、隠されたお菓子を探していました。

